「Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告」

-Continuing Education (CE) Courses に参加して-

長崎大学薬学部 安孫子ユミ

2024 年度の第 63 回 SOT 学術年会 (3/10-14) は, UTAH 州の Salt Lake City で開催されました (写真 1)。Salt Lake City はロッキー山脈の西端に位置し, 冬季オリンピックが開催されるような降雪が多い都市で, 会期中にも降雪がありました。山々にはまだ雪が残っており, 残雪と岩肌からなる綺麗な景色を見ることができました。さて, CE Program では毒性学およびその関連分野に関わる幅広い内容から午前と午後にそれぞれ 6 つのコースが設定されており, どれも毒性学者が知っておくべき魅力的な内容です。私は, 指定コースとして「Next-Generation Data Transparency and Open Science Policies: What Toxicologists Need to Know」, 選択コースとして「Advances in Metal Toxicology: From Aging and Disease Causation to Detection and Regulatory Measures」に参加いたしました。

指定コースでは, オープンデータを活用することで研究の時間が短縮できることや, オープンサイエンスを進めることで様々な科学者から協力や意見を得る機会を増やせてより良い研究になるということを学びました。また, データを公開する際には, FAIR (Findable, Accessible, Interoperable, Reusable) 原則に基づくものでなくてはなりません。この原則に従うのは大事なことであるにも関わらず, 論文投稿の際に見落としがちなことであると感じました。本コースでは 2-4 人の少人数の 30 分程度のグループワークにより (写真 2), 題材として与えられた論文が FAIR 原則に基づいているかを議論することで, FAIR 原則に基づいて論文を書くための練習になりました。恥ずかしながら普段は特に FAIR 原則について意識していなかったので, 本コースは有意義でした。その他にも, コース中にアンケートを取るなど参加者がアクティブに関わる仕掛けがされており, コース運営に関わるヒントも得られました。選択コースは金属の分析手法や曝露した後の解析, 食品梱包容器からの金属溶出に関わる安全性についての内容で勉強になりました。

最後に, このような貴重な機会を与えて下さいました日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様、並びにご支援いただいた先生方に深く御礼を申し上げます。

写真 1. 第 63 回 SOT 学術年会会場の外観

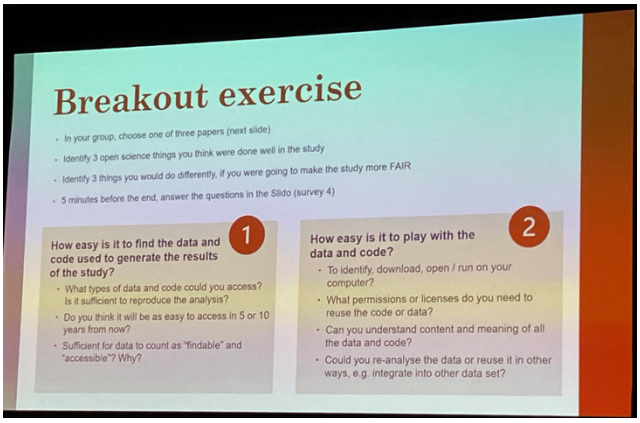

写真 2. グループワークの課題